

所 感

富山大学長 柳 田 友 道

昭和47年12月、本学附属図書館が現在地に竣工して以来、今年はまさに10年目の年に当る。その間先人達の努力によって、本図書館は着々と大学図書館としての発展を遂げた。その間蔵書数にしても、47年当時は約33万冊であったのが、途中薬学部の蔵書約2万7千冊が医薬大に移管されたにもかかわらず、現在約51万冊を所蔵するという状況にある。しかし本図書館の情報を学内外に報知するための館報は、残念ながらこれまで発行されていなかった。昨年来、二神前図書館長の発案で館報発行のことが決まり、このたび若林現図書館長のもとで、いよいよ第1号が発行されることになったことは、利用者側にとって誠に歓迎すべきことである。今後図書館当事者と利用者とは十分に意見を交換しながら、本館報を益々意義あるものに育て上げていただきたい。

さて現代の情報化社会の中における大学図書館の果すべき機能について、われわれは多くのことを知らされてきた。そしていわゆる情報図書館の名の示すように、大学図書館は単なる図書の倉庫ではなく、氾濫する学術情報を研究者に存分に提供できるような場になければならなくなってきた。本学の図書館もこれからはそのために本気で電算化に取り組む

方向で進みつつある。ただ、口で電算化するとはいっても、現状ではその道は極めて険しい。電算化するには図書館職員も利用人も、それ相当に訓練されなければならない。その訓練もただ目的もなしにキーボードをたたくものであっては発展はあるまい。電算化は確かに省力という面もあるが、省力だけでその目的は果し得ない。省力で得られた時間を、他の有効な仕事に振り向けることによって、これまで手の届かなかった仕事をもこなすことが、何よりも利用者へのサービスの向上につながるのである。電算化によって所蔵図書の有効な活用に資するのみならず、部外の大量の図書文献情報を有効に活用する道も拓けてゆくのである。

大学図書館は最近、意欲的な若林館長を迎えて、今後電算化の方向で進むことになるであろう。ただここで申し上げたいのは、単に大型コンピューターを導入しさえすれば、いきなり情報図書館化の夢が実現するとは考えられないということである。そのための第一の要件は、図書館職員と利用者の意識の変革が必要なのである。それを当面の第一目標として、一步一步、地道な努力を絶え間なく続けてゆくことが、立派な情報図書館の実現に向っての近道であると信ずる。

国立大学図書館間相互利用について

閲 覧 係

本年1月15日より、「共通閲覧証」が1通あれば、教官・大学院生のかたは随時他大学図書館の館内閲覧ができることになりました。実施要項等の概要は次のとおりです。

- ① 相互利用を希望する研究者は、あらかじめ所属大学の図書館長に申請し、「国立大学図書館間共通閲覧証」の交付を受け、利用時にこれを利用受入館に提示する。
- ◎ 1階の閲覧係窓口(工学部は分館)に申請用紙があるので、所属・住所

氏名等を記入して下さい。館長の決裁がいる共通閲覧証の即時的発行は困難です。ここに閲覧証の見本を示す。

- ② 有効期間は当該年度間とする。
- ③ 各館の利用上の留意事項を盛り込んだ相互利用マニュアルを全館が所持する。
- ◎ 利用時間などを載せたパンフレットが窓口にあります。

(表)

国立大学図書館間 共通閲覧証
※No. _____ 昭和 年 月 日
国立大学図書館協議会 加盟館長殿
附属図書館長 印
所属 _____ 身分 _____ ふりがな 氏名 _____
本学の上記の者から、貴館資料を利用したい旨、申し出がありましたので、閲覧の便宜をお取り計らい下さるようお願いいたします。
[有効期間:昭和 年 3月31日まで]

(裏)

〔本証利用上の注意事項〕
1. 利用受入館入館の際には、本証と身分証明書あるいは名刺を提示して下さい。
2. 閲覧利用は受入館の規則に従って下さい。
3. 特に希望の資料を閲覧したい時は、前以って、その資料名を受入館へ連絡して下さい。当館に連絡のための用紙を備えています。 希望資料の所在など不明な点があるときには、当館で尋ねてから出かけて下さい。
4. 本証の記載事項に変更があった場合は届け出て下さい。
本証発行館電話 — — (ext.)

開架図書の自動チェック装置について

閲 覧 係

4月より、カウンターの前にゲートが出現し、戸惑いを感じられたことと思います。この装置は、図書無断持出防止装置(ブックディテクション)です。従来私物の図書には、図書持込票を挿入していましたが、その必要はありません。この装置は精巧ですが、万一誤報にぶつかっても気を悪くしないで下さい。開架図書室の利用に際しては、下記の点に留意して下さい。

記

1. 閲覧室入口ゲート(矢印の位置)のバーを、軽く押して下さい。(入口と出口を間違えないように)
2. 閲覧室出口の所で警報が鳴ったら係員に申し出て下さい。うっかりして図書館の本がまぎれこんでいるかもしれないからです。(あわてないように注意してください)
3. 手荷物は、隣席を塞がさぬよう、置場所に注意し、出来るだけロッカー室を利用して下さい。

文 献 紹 介

社会生活統計指標 統計で見る県の姿 総理府統計局 昭和56年3月 448p B5

社会生活統計指標は、国際連合の社会・人口統計体系の趣旨に沿って、自然環境、人口、世帯、経済、財政、教育、文化、医療、労働、家計、居住環境、社会保障等国民の各分野にわたって、諸種の統計データを収集し、体系的に編成したものである。

昭和50年から53年までの指標値を取りまとめたものが、「社会生活統計指標 昭和55年度版」として刊行された。本書は、その書の掲載項目中の主な項目を再編成し、都道府県別に取りまとめ、各項目の全都道府県順位等を付して、指標相互の関係を明らかにし、地域特性の把握を容易にした資料である。

Bibliotheca Goethiana. Kyoto Gaikokugo Daigaku Fuzokutoshokan 1981.3 xlili,248p B5.

(背書名：ヨーハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ 作品と参考文献)

京都外国語大学附属図書館が刊行している図書館蔵書の文学関係作品シリーズの1冊、昭和47年刊行の「ゲーテ文献目録」を、昭和55年9月現在で、改訂増補したもの。

写真、解説付の「クリスティアン・ゴットロープ・フォン・フォイクトあてのゲーテの書簡」等9点を含める1,256点をハンス・ビューリッツの「ゲーテ文献目録」により分類し収録して、巻末にゲーテ年譜、著者名索引、書名索引を付した貴重な書誌文献である。

山陰のわらべうた 中海周辺および隠岐・子どもの遊び歌資料集成 水野信男編 島根大学音楽学ゼミナール著 「山陰のわらべうた」刊行会 1981年9月 502p A4

1972年6月1日～74年4月20日の期間に、島根大学音楽ゼミナールが大根島・中海周辺および隠岐島の小学校合計100校、のべ1,500余名の児童を対象にわらべうたの採集調査を行い、同種・同名の曲をまとめ371種の比較総譜としたものである。わらべうたを単なる

古い伝承歌としてではなく、行動のfield workerとしてのアプローチを試みるため、調査対象者を古老でなく、すべて現に遊びにともなう歌をうたっている小学生をえらんでいる。小学生の書いたカットや、遊戯中の小学生の写真をふんだんに取り入れてあり見るだけでも楽しみな本である。

また、まりつきうたには、まりつきの遊び方が図解され、絵かきうたには絵のかき順、完成画が画かれる等、細かい所に気を配った本である。

新収日本地震史料 第2巻 自慶長元年～至元禄16年 東京大学地震研究所 昭和57年3月 2冊(含別巻)

慶長元年(1596)より元禄16年(1703)まで、日本(台湾及び朝鮮を除く)で発生した噴火、降灰砂、山崩、地沁り、天候異常鳴動など、地震とそれに伴う津波に関する史料を、地震年月日、関連地名、出典、史料の順に記載し、地震を感じた場所、被害をうけた場所、地震回数等を詳細に記載し、出典については巻末に史料の五十音順に出典(文書)名、編著者、発行年月日、出版者(所)、および該当史料の所蔵(保管)者を記載する等、地震学的内容が正しく伝わるよう配慮されている。

なお、元禄地震については、新収史料が多いので別冊で刊行されている。

(参考係)

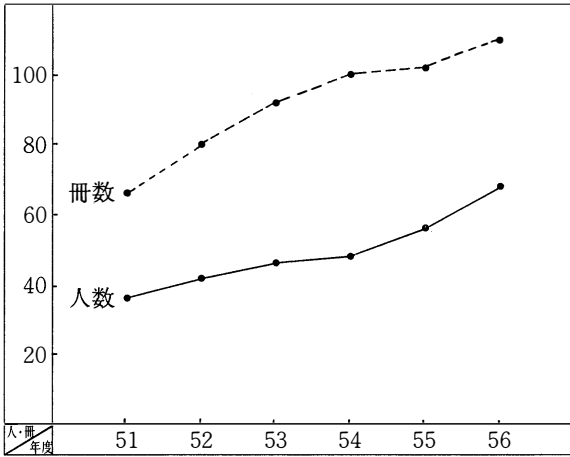
ヘルン文庫紹介

ラフカディオ・ハーン(Lafcadio Hearn 1850～1904.日本に帰化して小泉八雲と称した。)は幼少のとき父母と生別して、フランス、イギリス、アメリカと流浪して、40才のとき日本に来て永住の地を見いだした。その流麗な文章によって日本文化の真髄と日本人の心の美しさを世界に伝えた功績は大きい。ハーン所蔵の図書全部を収めているのがヘルン文庫である。文庫は洋書2,071冊、和漢書364冊、合わせて2,435冊および「神国日本」の手書き原稿1,200枚などからなっている。

昭和 56 年度図書館利用状況

区 分	入館者数	館 外 貸 出						参考業務 利用数	文 献 複 写 利 用 数			
		教 職 員	学 生	計		受 付	依 頼					
図書館本館	264,450	2,405	22,900	20,826	15,841	23,231	38,741	928	3,692	22,774	1,195	10,814
工学部分館		2,444	5,921	4,210	8,417	6,654	14,338				356	3,181
合 計	264,450	4,849	28,821	25,036	24,258	29,885	53,079	928	3,692	22,774	1,551	13,995

館外貸出一日平均推移
(本館, 開館日数年平均293日)



年間利用頻度の多い月：2月(過去5年間の閲覧統計による)
2月の平均：入館者数1100人, 閲覧者数105人, 閲覧冊数180冊

蔵 書 冊 数
(昭和57年3月31日現在)

分類別	和 書	洋 書	合 計
0 総 記	34,146	12,146	46,292
1 哲学・宗教	21,980	6,903	28,883
2 歴史・地誌	31,735	6,168	37,903
3 社会科学	100,220	32,535	132,755
4 自然科学	46,403	44,184	90,587
5 工 学	37,407	13,554	50,961
6 産 業	19,338	4,245	23,583
7 芸 術	14,709	1,853	16,562
8 語 学	14,562	8,743	23,305
9 文 学	40,606	17,821	58,427
合 計	361,106	148,152	509,258

—— 図書館関係会議 —— (昭和56年度)

商 議 会

- 5月12日 昭和56年度大型コレクション収書計画, 富山大学附属図書館電算化委員会設置について審議
- 6月12日 昭和56年度概算要求について審議
- 7月21日 昭和56年度図書館運営費, 学生図書購入費, 基本参考図書購入費について審議
- 11月2日 外国図書購入費各部門配分について審議
- 11月30日 次期図書館長候補者の選定方法と日程, 図書館設備費について審議
- 12月24日 次期図書館長候補者3名の選定, 図書館報発行について審議
- 1月25日 経営短期大学部からの申し入れについて審議(継続)
- 2月15日 富山大学附属図書館電算化委員会中間答申

図書館商議会名簿

若林嘉一郎(図書館長(工))
宮尾嘉寿(工学部分館長(工))
和田晴吾(人), 夫馬 進(人), 大塚恵一(教),
加瀬正二郎(教), 棚田良平(経), 小原久治(経),
安田祐介(理), 岡部俊夫(理), 宇佐美四郎(工),
間庭充幸(養), 桂木健次(養), 竹岡 環(図),
オブザーバー 亀田速穂(短大)

国立大学図書館協議会

- 第28回総会・6月23日～24日
 - ・当番地区：九州地区協議会
 - ・会場館：琉球大学附属図書館
- 第1日目：総 会, 研究集会
- 第2日目：第1, 2, 3分科会, 全体会議

北信越地区国立大学図書館協議会

- 第32回・11月5日～6日
 - ・於長岡技術科学大学図書館
 - ・協議題「第29回国立大学図書館総会準備について」, 「第32回北信越地区国立大学図書館研修会について」

し ょ こ う

館報・書香(しよこう)第1号が完成しました。発刊にあたり題名をどうするか苦慮の末, 多数応募の中から藤本幸夫助教授(人文)に名付の親になっていただきました。語意は「学問する気風のあるもの」ということです。また, 図案は小倉玄吾教授(教育)にお願いし, 書体は「正倉院の書蹟」の内, 延暦六年六月二十六日と日付のある「曝涼使解」よりいただきましたとのことです。

今後, 語意に負けないよう編集に努力してゆきたいと思っております。みなさんのご意見, ご希望をどしどしお寄せ下さい。